

しょう 障がいについて 理解と配慮 り かい はいりょ

しょう だれ しょう う 障がいは誰にでも生じ得るものです

びょうき じこ お 病気や事故はいつ起こるかわかりません。

どうよう しょう だれ しょう う 同様に、障がいはいつでも誰にでも生じ得るものなのです。

しょう たしゅ たよう おな しょう いちりつ 障がいは多種多様で同じ障がいでも一律ではありません

しょう しゅるい ていど さまざま おな しょう しょうたい いちりつ 障がいの種類も程度も様々であり、同じ障がいでも、その状態は一律ではありません。

しょう ふくすう ば あい また、障がいが複数ある場合もあります。

がいけん しょう 外見ではわからない障がいもあります

しょう たしゅ たよう がいけん しょう 障がいは多種多様であり、外見だけでは障がいがあることがわからないこともあるため、しゅうい りかい くる ひと 周囲に理解されず、苦しんでいる人もいます。

じょうほう きょうゆう い し そ つう 情報共有や意思疎通をしましょう

ひつよう じょうほう おんせい もじ しゅわ ひと あ さまざま 必要な情報は、音声・文字・手話など、その人に合った様々なコミュニケーション手段を使って提供しましょう。

あいて いこう ひつよう おう ひと あ しゅだん つか 相手の意向や必要に応じて、その人に合ったコミュニケーション手段を使って、「ゆっくり」「はっきり」「簡単な言葉で」「ていねいに」「繰り返し」伝えましょう。

かいじょしゃ 介助者がいても

かいじょしゃ ほんにん はな 介助者ではなく本人に話しかけましょう。